

# 多賀工業会千葉県支部会報

第 12 号



（もちつもたれつ）

「この世の中は、もちつもたれつ、お互いに肩肘をはらずにマァ マァ でやりましょうや」  
人の努力も心配も無視するような口ぶりや態度に接すると、怒りをこえて情けなくなってしまうものです。何故そのな気持ちになるのかといえば、自分を最初から捨ててしまったり、なにもしないうちに、自分をあきらめてしまう姿勢に問題があるからです。

（長いものには巻かれろ）

然し、どれ程自分が努力してもそれが直ちに認められるものではありません、これも実際です。そればかりか出る杭は打たれるというのですから、権力や勢力のある人には黙って従う、それが頭のいい生き方だという声もあります。ところが、人間の心とは不思議なものです。そのような偽りの自分を見逃すことは出来ないのです。

（皆さんのおかげ）

「皆さんのおかげです」勝利者のインタビューでよく聞く言葉ですが、何故か自分の力で勝ったとはいいません。勝つために全力を尽くし、自分の活躍で勝つことが出来たにも拘らず自分のことは後回しになるのです。

今サッカーが大変な人気です。幼い子供達は、頭の中に世界のトッププレーヤーになったつもりで、そのイメージでボール遊びに夢中になっています。自分が活躍し、目立てば、大喜びで得意満面です。それが中学生・高校生にもなれば、自分の技術を磨くことばかりでなく体力の作り方、食事の仕方、一日の過ごし方などすべてがトレーニングとなっています。この様な毎日の努力を積み重ねて試合に望むわけですが、勝って驕らずの謙虚な気持ちになっているのです。

（自分が主役でも自分一人ではない）

毎日を生きていくうえで、自分に代わるものは何もありません。自分が笑顔で接すれば

相手も笑顔でこたえてくれますし、その反対もあります。

自分がベターをつくしベストを求めていく時、結果としてその自分を支えている大きな力があつたことに気がついてきます。

その様な自覚から、つくしあいの生活が始まります。

#### 平成6年度・事業報告と事業計画 (H6・3・1-H7・2・28)

#### 1 千葉県支部関連(事業報告)

##### ① 平成6年度幹事会開催

日時 平成6年5月20日(金)午後6時-午後8時 場所 フローラ西船

主要審議事項 平成5年度事業報告及び決算。平成6年度事業計画及び予算案。

第21回支部総会開催関連事項ならびに役員改選及び千葉県支部規約改正案等。

##### ② 第21回支部総会 開催 日時 平成6年7月24日(日) 場所 フローラ西船

講演者 地引一夫氏 講演内容 相続税・贈与税の正しい知識。

周到に準備された貴重な資料を戴き、懇切丁寧なお話、真剣な質疑と的確な応答で、参加者全員、感銘を受けつつ理解を深めることができました。また『参加者各自の住居地区の地価表』が送付され講演後のフォロー万全、実態にもとづく復習に大変役立ちました。感謝申し上げます。

##### ③ 親睦ゴルフ競技会 平成6年10月28日 場所 船橋カントリー倶楽部

##### ④ 会報関連 会報11号編集・発行・発送。

#### 2 本部関連

平成6年10月8日 支部長会議 多賀工業会館に於いて 山田支部長出席

審議事項及びその内容は山田支部長が次回千葉県支部理事会に報告予定。

3 支部関連 栃木・埼玉・静岡・東京・水戸勝田 山田支部長及び三幣幹事長出席。

4 千葉県支部関連（事業計画）

① 千葉県支部会報 12号 編集・発行・発送（12月中旬）

② 第4回 工場見学並びに忘年会 平成6年12月2日（金） 当日の予定は下記。

I 集合 正午（12時） JR 本八幡南口 時間厳守

II 県立現代産業科学館（平成6年9月新規開設）〔JR本八幡南口から徒歩15分〕

III 12:50 <sup>アイマックス</sup>IMAX・<sup>ドーム</sup>DOME（<sup>オムニ</sup>OMNI <sup>マックス</sup>IMAX）による映画

a 歴史の扉を開いた産業技術 b グランド・キャニオン

IV 2:15 館内自由見学

V 2:20 バスでサッポロビール千葉工場に移動。

VI 3:00 <sup>アストロ</sup>ASTRO <sup>ビジョン</sup>VISION による映画 a 人間とビール紀行

VII ビール製造工程順に工場見学・ラウンジで出来たてのビール試飲。

VIII 4:30 バスでフローラ西船

IX 5:30 平成6年忘年会 フローラ西船

X 7:30 散会

県立現代産業科学館 (☎ 0473-79-2000)

サッポロビール千葉工場 (☎ 0474-37-3591)

フローラ西船 (☎ 0474-35-2211)

平成6年度年会費納入者氏名（計201名 略敬称）

- 16 長尾和愛 渡辺義治 吉田 俊 前田晴郎 田中康雄 原田正夫 杉本喜久雄
- 17 羽鳥忠雄 地曳一夫 檜山良平 今村 勝 林 詮 塚原 重 市東志郎
- 18 大内 弘 加藤清明 石井弥二郎
- 19 大木一郎 木村一夫 鈴木幸男 野島貞夫 小林秀夫 柴 敏夫 萩谷 進  
大山 巖 杉原達男 山田泰雄
- 20 鈴木友生 斎藤勝夫 白鳥忠雄 嶋田 清 中村四郎 隈本孝之
- 22 山本芳正 高山和夫 福地敏郎 伊藤勝衛 明石和夫 川崎幹夫 額賀利厚  
並木 靖 佐藤 豊 井川滋郎 佐川秀雄 田口哲也 川又慶三 田村耕治  
安達恵三郎 御園生計夫 中村善一郎
- 23 篠崎光男 松平静和 清宮文雄 大川栄一 一木 忠 三橋 宏 高橋長男  
平島 有 岩下 晃 高嶋謹一 川上昭二 矢口三郎 保立辰巳 高橋博太  
荘司 修 海野政之助 平塚新兵衛 大久保勝躬
- 24 榊原信行 草刈 薫 庄田司郎 河野吉次 三幣正人 栗谷川文司
- 25 宮島正弘 高松恒夫 稲葉信彦 山田秀男 塚越要夫 野田茂信 森 勇一  
大塚恒男
- 26 岡安孝捷 川上 明 飛田良雄 熊谷達夫 長谷川宏佑
- 28 関田達雄 吉田哲夫 池沢豊治 吉田栄一 税所 裕
- 29 大津正夫 北村 健 柳 陽 大津勝男
- 30 中板昭夫 綿引敏雅 住谷永夫 檜山邦邦 手塚 滋 目黒 久 中野義正  
石川安男 木戸田松吉
- 31 平戸三郎 新田和夫 平戸三郎 32 段家文彦 檜山直孝 大和田武義

- 33 杉田 茂 照沼義光 薄井徳彦 藤岡英智郎  
34 皆川孝之 芝山佑芳 鈴木 徹 幕内仁三 黒沢一之  
35 草刈謙次 大住 淳 高橋 清 土屋孝右 原田武保  
36 久野 清 小室哲夫  
37 古橋弘治 遠藤芳勝 富田宣吉 佐藤哲雄 坂本 勝 陣野友久  
38 高萩隆司 高見忠彦 渡辺富勝 39 市瀬忠彦 高崎芳紘  
40 森藤洋和 川野辺建 41 渡部昭夫 柴 勇 木村 保 黒川道生  
42 小園井健 浜野紘一 檜座世善男  
43 岡田猛彦 杉浦武夫 橋本弘道 岡崎幸男 44 日置和夫 梅田駿明  
46 深山泰一 高橋利男 沼倉研史 兼巻良勝 笹倉隆親  
47 金坂 潤 薄井秀治 石井一敬 48 荒井康司 大沼富夫  
49 畑中和雄 50 平山良彦 八木茂樹  
52 田中 隆 倉川久男 富永哲夫 岩瀬幸男  
53 八木純明 曾根 勉 小倉勝彦 54 柴森克之  
56 増淵公孝 中村祥孝 59 新谷純一 60 神田 健 吉沼 邦  
61 小堀繁治 62 佐藤敏哉 63 望月輝久 丸山尚正  
H1 原 啓介 徳永敬一 桑原弘明 前田憲男 都築宏昌 長谷川晃久 宇佐美直之  
H2 押田正樹 庄司雅利 H3 有吉伸行 笠原康嗣  
H4 坪井信行 和賀修一 賀川宣英 H5 山本敏弘  
H6 四野宮隆 小山真二郎 旧職員 三好洋子

会社を辞める3年程前から、辞めてからの人生を“ぼけ”ることなくより有意義に送るために、余暇を有効に活用しようと考えていました。

旧制中学時代・歴史は興味ある学科の一つでしたが批判したり私見を述べることはタブーで、暗記科目的要素が強かったので、もう一つ馴染めませんでした。ところが、敗戦後は歴史といえども科学的手法による遺跡・遺物の実地・検証等が重視されるようになったので、明日香・斑鳩を含む奈良を実際に歩き・見聞し・文献を収集して『大王時代の物語』に夢を膨らしましたが何故か“シルクロード”が欠かせない要素だと痛感して約5年間、遍歴しました。その結果、古代エジプトに焦点を絞りこむことにしました。

それは、『ギザ』にあります、クフ王の大ピラミッドの寸法の正確さに魅せられてしまったからです。技術屋のロマンが猛然と湧いてきたのかもしれない。

クフ王の大ピラミッドが、建設されたのはBC2550年頃です。

その寸法は、イギリスのフリンダース・ビートリーが、AC1880年12月から翌年の5月頃迄約6ヶ月かけ計測した数値が現在公認されて居ります。

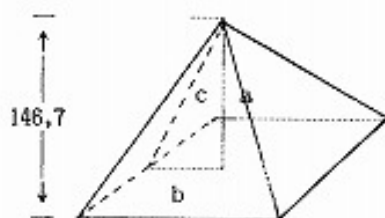
【注 ギザ一帯が、磁場や地盤の変動を無視してよい地域である事から、経年変化による再計測の必要性は全くない地域とされています】

そのことについては、1925年、エジプト考古局測量庁で計測し確認しております。また極く最近ですが、AC1977年、早稲田大学の渡辺保忠教授が計測しております。

- 1 この寸法について触れると、
  - ① フリンダース・ビートリーと渡辺教授の計測値

- A 高さ 146,7m (現在137,26m)
- B 階段 210段 (現在203段)
- C 総体積 2,594,914 m<sup>3</sup>
- D 地理的位置 北緯 29° 58' 51" 東経 31° 09'
- E 積まれた石材の数 (推定) 約268万個 約230万個 (渡辺教授)
- F 入口の位置 地上 17m [北面の中心線より7,3m・東へ偏向 (渡辺教授)]
- G 傾斜角  $\alpha = 51^\circ 52'$
- H 一段目の水平誤差 最大高低差 36mm [東南と北西コーナーの差20mm]
- I 基底の角度 東北角 90° 03' 02" 北西角 89° 59' 58"  
 南東角 89° 56' 27" 南西角 90° 00' 33"
- J 基底の長さ 北辺 230,25m 東辺 230,39m  
 南辺 230,45m 西辺 230,35m
- K 各辺の基底 北辺 2' 28" [西よりの南偏] 東辺 5' 30" [北よりの西偏]  
 の偏向 南辺 1' 57" [西よりの南偏] 西辺 2' 30" [北よりの西偏]

2 大ピラミッドの中の黄金分割 ( $\Psi$ ) ・ならびに円周率 ( $\Pi$ )



黄金分割 ( $\Psi$ ) について。

$$a = 146,7 \text{ m}$$

$$b = \frac{230,36}{2} = 115,18 \text{ m}$$

$$c = 186,51 \text{ m} \quad (\text{Pythagorean theorem})$$

230,36mは、前記J項で示した四辺の基底長さの平均値



$$\text{黄金分割値}(\Psi) = \frac{c}{b} = \frac{186,51}{115,18} = \underline{1,61929154} \dots\dots$$

$$\text{正規の黄金分割値}(\Psi) = \underline{1,61803398} \dots\dots$$

黄金分割値(Ψ)と正規の黄金分割値(Ψ)は、小数点以下2位までは等しい。

円周率(Π)について。底辺の総和=高さを半径とする円周 ということから、

$$4 \times 230,36 = 2 \times \Pi \times 146,7$$

$$\text{円周率}(\Pi) = \frac{4 \times 230,36}{2 \times 146,70} = \underline{3,140558963} \dots$$

$$\text{正規の円周率} = \underline{3,141592} \dots\dots$$

円周率の値もまた、小数点以下2位までは等しい。ことが分かる。

写真や“ギザ”の現地で、この大ピラミッドをみれば均整がとれた巨大な建造物と感じ、それ等がBC2550年以前に建てられたと知ると一層驚くでしょう。

黄金分割・円周率以外にも数学的に面白い数値がありますし、次々と興味ある問題が提起されていますので次回に触れてみたいとおもいます。

## 千葉歌苑

高山 和夫 22 機械

梅雨近く たわわに穂る實は六疋

豊作年の梅干 作らむ

米不作に泣きし冷夏は去年のこと

わが列島は熱帯夜続く

三十五度 真夏日続く列島ぞ

潮涸れて 養殖魚浮く

父母は寿命迎えず逝けにけり

この著き夏盆会慰ひくれしか

盃盆会 終りて点す送火の

匂残れる髪洗ふをためらう

みすぎ まこと 24 機械

四<sup>〇</sup>インチの液晶が写す 古いの顔

苦惱の小皺 鮮明に刻む

大<sup>キ</sup>編<sup>カ</sup>刷<sup>ク</sup>に唐<sup>カ</sup>黍<sup>ク</sup>ませし培養土

幻のキノコ 疑いて育つ

製品はベルトにのりて ひた走る

人の温もり 加わわらぬまま

冷間を引き抜かれし 窓の枠

右から左 音なくながれる

水煙をあげてくれるインゴット

炎の帯よ かぎりなく続け

リストラか リ・エンジニアの荒波か

下話け企業 別れなく消ゆ

塚越 としを

風の盆

雁渡し 奈落<sup>ナラ</sup>にかかる橋きしむ

度かるるに 抗<sup>アツカ</sup>ひありぬ烏瓜

稲咲くや 切<sup>キ</sup>つ先おとす三日月

ひきがえる 境<sup>サカイ</sup>涯<sup>ハ</sup>すべて無神論

からくり時計 正時<sup>マサトキ</sup>告<sup>ツ</sup>げをり夢の花

刀豆<sup>タウマ</sup>や 男<sup>オトコ</sup>の論理<sup>ロリ</sup>はじかれし

負<sup>オモ</sup>の想<sup>オモ</sup>ひ あまりに花野<sup>ハノ</sup>広<sup>ヒロ</sup>すぎで

虫<sup>ムシ</sup>の夜<sup>ヨ</sup>の耳<sup>ミミ</sup>聴<sup>キ</sup>くなる 妻<sup>メケ</sup>の留守

地藏盆 腰<sup>コシ</sup>揚<sup>アゲ</sup>げをせし足<sup>タビ</sup>小さく

水音<sup>ミヅネ</sup>のふくらんでいる 地藏盆

梨<sup>リ</sup>食<sup>ク</sup>べて団<sup>ダン</sup>樂<sup>ガク</sup>の灯<sup>トウ</sup>を丸<sup>マル</sup>くする

津<sup>ツ</sup>軽<sup>ケイ</sup>三<sup>サン</sup>味<sup>ミ</sup>線<sup>セン</sup> 爪<sup>ツメ</sup>に修<sup>シュ</sup>羅<sup>ラ</sup>みし夜<sup>ヨ</sup>の秋

UFOの電<sup>デン</sup>波<sup>ハ</sup>をキヤツ子<sup>コ</sup>蔓<sup>マン</sup>珠<sup>ジュ</sup>沙<sup>シャ</sup>華<sup>カ</sup>

鐘<sup>ネ</sup>乳<sup>ニ</sup>洞<sup>ドウ</sup> 出<sup>デ</sup>口<sup>コウ</sup>の秋<sup>アキ</sup>日<sup>ヒ</sup> 遊<sup>ユ</sup>びをり

福<sup>フク</sup>ぼくろに話<sup>ワ</sup>あつまる天<sup>テン</sup>の川

数<sup>スウ</sup>珠<sup>ジュ</sup>玉<sup>ギョク</sup>を抜<sup>ヌ</sup>け来<sup>キ</sup>し風<sup>カゼ</sup>にくすぐらる

混<sup>コン</sup>沌<sup>トン</sup>や 秋<sup>アキ</sup>圍<sup>イ</sup>けている步<sup>フ</sup>道<sup>ドウ</sup>橋<sup>ハシ</sup>

八<sup>ハチ</sup>十<sup>ジュウ</sup>路<sup>ロ</sup>翁<sup>ウ</sup> 健<sup>ケン</sup>咳<sup>カ</sup>みせる秋<sup>アキ</sup>灯<sup>トウ</sup>

風<sup>カゼ</sup>の盆 よき娘<sup>ムスメ</sup>のうしろ讓<sup>ユ</sup>られし

風<sup>カゼ</sup>の盆 くせ腰<sup>コシ</sup>ゆるる 胡<sup>コ</sup>弓<sup>ウ</sup>かな

黒と藍ねずの絹のひとえに白地の帯。涼風の立つような和服姿。

そこには、九十歳を越した地唄舞の名手“竹原はん”がいる。

彼女の舞を見た人は「動く浮世絵」と賞賛するが、本人曰く・・・「恵まれた容姿と、よういわれます。けど、違ふのや。私が造りましたのや」と。

貧しい家計を助けようと十二歳で大阪南地の置き屋・大和屋が開いた芸技養成所へ。

「この子、怒り肩や。踊りはあかんが」。あっさり長唄に振り分けられた。

「踊りたさに人の稽古の真似をしていたら『あんた踊りたいんか』と大和屋にいた、お婆さんが山村流を教えてくれはった。それが踊り始め」。

怒り肩を矯め、襟に上向きに針を打って首が前に出る癖を直し、浮世絵師‘春信’描く女の姿態から、また吉田文五郎が遺う文楽人形の動きから学びとる。遊芸の者と見下されまいと、トイレで本を読み、座敷の合間に英語独習書を開き‘ちり紙’に字を習う。・と。舞うことに生涯をかけてきた彼女。最大限の努力を尽くす人である。

卒寿（卒寿・九十歳のこと）を過ぎた今でも現役。舞によせる執念は深く『芸は祈り』を口癖に芸（舞）の成就を念じて“写経”は二十代から一日も欠かさず続けているという。

これからも、ますますお元気で“心・技・体”の調和のとれ、気品に満ちた舞姿をみせて欲しいと願うのは、私だけではないと思うが如何。

[本文中、平成六年・朝日新聞‘ひと’欄の一部を転載しました]

私は、今年珍しい受賞を体験しました。

最初は、四月に上海市政府より“白玉蘭”（はくぎょくらん）記念賞。

九月に中国政府より“友誼賞”（ゆうぎしょう）を受賞しました。この数年間、年に三十回以上も上海市の化学工場を訪問し、私の会社が納入したプラントのアフターサービスを友好的に行ってきたことが受賞の理由です。

中国は目下発展途上にあり、先進国レベルに追いつくため、外国人による指導・支援を仰いでいます。対象分野は、農業・工業・商業・外国語など多岐に亘ります。

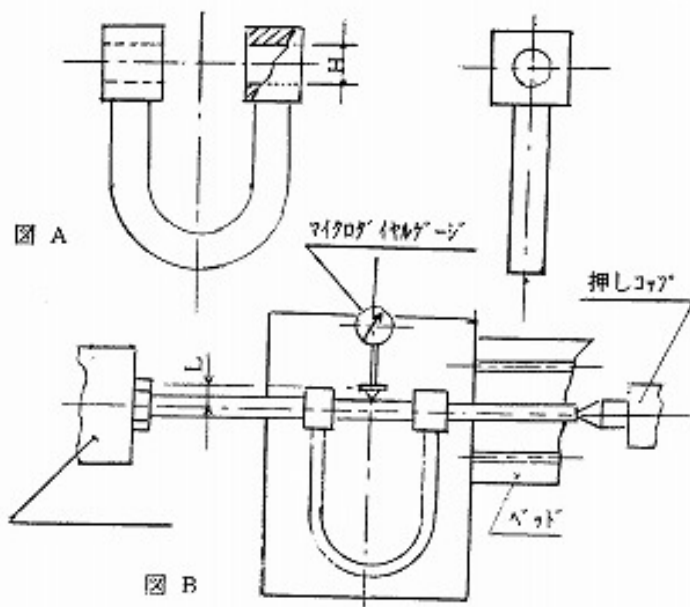
ユニークな分野としては、林機栽培・東北地方の米づくり・味噌醤油・ビール醸造・都下鉄工事・環境対策・自動車・医薬品製造などです。

外国語の指導者が最も多いようです。日本語の先生も沢山おられました。

全体の印象は、四十年前の日本の状況です。



旋盤の加工は、固定観念にとらわれと、丸および面挽・穴あけ・ネジ切り加工等と限りがちですが『中ぐり加工』について述べてみます。図Aの型打ち鍛造品のHの



“通し加工”を  
図Bのセットで  
『中ぐり加工』  
して完了する。  
多量生産の場合  
単純加工者でも  
加工できるよう  
段取りを行う。  
第一加工は粗  
盤で一定の径に  
第二加工して  
『中ぐり加工』  
を終了させる。

第二加工の準備段階において

- ① アーバーのバイト歯先のセットしを一定にし、これをダイヤル・ゲージで確認する。
  - ② アーバーにセットした歯先の摩耗と加工品の通り止りの検査ゲージにより合格の本数を定める。その前提にバイトの“切り込みおよび送り”を目盛り合わせて一定に最良状態を検討する。以上の経過により一日（8時間）の加工数よりアーバーとバイトの数を準備。
- 機械技術者は、その技術の本質を見極め・理解し・常に好奇心をもって追及し、その着眼点を柔軟にし、自由自在に発想を心掛けるに努力をつむべきである。

満六十六歳になったとき、ある理由でアルコールをびったりやめた。最近、満六十八歳の誕生日を迎えたから、はやいもんで丸々、二十四ヶ月アルコールを断ったことになる。飲みはじめはカストリ・濁酒しかなかったが、懐を心配しないで豪快に飲めるようになってからは専ら“ビール”だった。四十二歳の誕生日に大瓶で四十二本飲んだ記憶がある。

丁度その頃、ドイツの『ビール早飲み大会』の写真を見た。“オツマミ”もグラスもない殺風景な会場に、競技参加者は横になって『口に“ビアー樽”からのゴム・ホース』をくわえヨーイ・ドンで競技開始して時間内の“飲み干したビールの量”で優勝を決める簡単なルールだ。元来、お遊びとはいえ“大食いとか・早飲みを競う”ものは残酷で凄惨だから私は嫌いだ。ところが写真をジックリみたら更にビックリしたことがもう一つあった。ビールは『利尿剤』の効能もあるくらいだから“ビール”と“小便”は付きものだ。

“ゴム・ホース”が、もう一本あってそれが“チンボコ”から出て屋外に繋がっていた。“樽から口・チンボコから屋外”ちゃ小便するには都合がよいだろうが“旨いも不味も”あったもんじゃない。人間はビールを通過させる部品にか過ぎない。それでも機会があったら挑戦したいと当時は思っていたから相当“ビール”に取り憑かれていたに違いない。丁度よい機会なので『私とビール』について簡単に試算してみた。

まず“呑んだビールの総量”だ。一々記録を採ってないからアバウトで計算してみると、40年間・1日平均大瓶で3本・と踏めばこれより下回ることはないだろう。

大瓶1本は随分半端で不思議だが、 $633\text{ml} \cdot [0, 633\text{l}]$ だ。

“総飲したビールの総量” $= 0, 633\text{l} \times \overset{1000}{3} \times \overset{365}{40} = 27, 725\text{l}$

大雑把だが、一升瓶で1万500本強・ドラム缶で460カンとなる。

重量に換算すると、琵琶湖や十和田湖の遊覧船の中型位の重量トンはタップリある。  
つかった費用は幾ら？ 時代によって値段が違うから、今話題の劇安店“サリ”の価格・  
キリン・ラガー缶〔350ml・1ケース（24缶）・3,990円〕を参考に計算すると  
『一千三百万円強』となる。

日本酒は一般的にいうと古来から『1年間四斗樽』が適量といわれる。

“灘から江戸へ”回船で運ばれる時代から、昨今では祝い事の“鏡割り”や顔見せ興行の  
歌舞伎座の前に賑々しく積まれ景気をつける、菰を被った『樽』のことだ。

しとんぼ  
四斗樽 『よんとだる・40升・400合』は『樽の木』が400合の10%の40合を  
飲む。残りは360合。これを1年360日で飲むとすれば、1日当たり=1合となる。  
こんな目安で飲めば、四斗樽が『ひと樽』と呼ばれ‘百葉の長’というのだ。  
じゃ『ビールの適量』は、一体何本なのか。なんか“目安”はないもんだろうか。

『アルコールの適量』は嗜む人の個人差があるから一概には言えない。‘酒を友’として  
生涯飲み続けたい人は“お薬”を飲むように飲むだろう。‘気分・雰囲気’で飲む人は、  
醸造酒であろうと蒸留酒であろうと神経質には飲まない。アルコールの効能は疲労回復・  
ストレス解消・善玉コレステロールを増やすという。“アルコール依存症”にならず、  
飲む程に自己制御がきかず、飲む過ぎて二日酔い程度に呑むのが賢明であろう。

今回、サッポロ・ビール千葉工場を見学して“出来たてのビール”を試飲するという。  
“ビールのタンクの中”で溺りたい！が願いだっただのに、残念至極だ。

私も、酔いつぶれたり・大声を出して随分迷惑をかけたと思う。慙愧にたえない。  
衷心からお詫びする。【編集後記に代えた】